



私を揺さぶる、グランプリ。12月16日からボートレース住之江で開幕する1年の総決戦、SG「第40回グランプリ」に向けた特別企画。「Road to THE GRAND PRIX キャンペーン」と題した企画の第4弾としてトップレーサーの桐生順平（39＝埼玉）にスポットライトを当てる。GPを勝つために必要なものとは何か？張り詰めた空気の中で、人知れず注視されていることや大会前後の思いなど、大舞台の裏側をありのままに語った。
（取材日＝10月5日）

桐生 順平

また、あそここの場所に行きたい

桐生順平が考えるレーサーにとって最も大事なものは「運」だ。「運をたくり寄せる人が年末に行けずし、実力、努力など、他にもいろいろと必要な要素はあるけど、レースだけでなく、生きる上でも運が一番大事だと思っています」。ボートレースは巡り合わせに左右される面はぬぐえない。エンジン、ボートの抽選から始まり、GPにおいては、枠番の抽選もある。毎年、その明暗が話題を集めるが、桐生が考える運の良さは、決して、1枠を引くことだけではない。「伸びる人の隣（のコース）になったり、自分の内側の人がスタートを遅れたりとか。そういうこともまとめて、運だと考えています。だからこそ、運気が巡って来た時には逃したくない」。

17年の住之江。初めてGPを制した時がそうだった。トライアル2nd 1回戦を2着、2回戦を1着。優勝への道筋が少し見えてきた

運命の3回戦。進入争いがあり、1枠ながら、深いインコースになった。1Mで石野貴之にまぐられ、航跡の上で、もがいた。優勝戦1枠が遠ざかったように思えたが、2Mの全速ターンで4番手に浮上。そして、2周1M、先行2艇が競り合った隙を突き、2番手に上がり、2着。優勝戦1枠につなげた。絶体絶命のピンチを脱したのは、実力と経験値があったからこそ。しかし、先行2艇が競り合ったあの瞬間は、

レースだけでなく

生きる上でも一番大事

だからこそ

運が巡って来た時には

逃したくない

枠番	選手名
1	峰 竜太
2	池田 浩二
3	毒島 誠
4	茅原 悠紀
5	佐藤 翼
6	桐生 順平

↑桐生選手が考える優勝戦メンバー↑



17年グランプリ優勝戦



17年グランプリ表彰式

自己紹介

名前	桐生 順平
生年月日	1986. 10. 7
自分の性格	わか"まま
趣味	何でもします
特技	特になし
得意な決め手	特になし
好きな色	黒
好きな食べ物	ラーメン
ひと言	頑張ります!!



優勝への神風が吹いたとしたかと思えないものだった。桐生には、ひそかな楽しみがある。「人を見るのが好き」。特にGPのトライアルにおいて、展示を終えた後、6選手が集う本番前控室での人間観察は習慣になっている。自らはヘルメットのシールドを下げ、プラスチック越しに、ライバルを見る。「ぐっとレースに入り込む人なのか、それとも、視野を広げていく人なのか、それを見せる人なのか、見せない人なのか。極限状態だからこそ、人間性が出ると思います」。

桐生自身もレースに向けて、切迫する時。その瞬間がレースー冥利（みょうり）に尽きるといふ。「あの緊張感を味わえることがうれしい。（トライアル2ndは）たった4日で、その瞬間がレースー冥利（みょうり）に尽きるといふ。」「あそここの場所に行きたい」。

すけど、すごく長く感じます。精神が削られますし、肉体的疲労も他のレースとは全然違う。大会前には走りたくない...という感情を抱くこともあるという。しかし、大会後、休養を取り、年が明けると、渴望を抑え切れない。「また、あそここの場所に行きたいなど。そう思うということは（GPが）面白いんだと思います」。水面だけでなく、その裏側でも、頂上決戦の魔力に取りつかれている。

これまで、平和島、大村でもGPを経験した。しかし、感情の高ぶりを誘発するのは、聖地・住之江だと話す。「GPは住之江。そう思っています。レースをしている時の雰囲気（会場とは）何か違います。具体的に何？と言われたら分からないけど。17年に優勝、19、24年には優出3着。全レーサーの中でも、住之江GPの実績は上位に入る。2度目の戴冠を目指し、流れをつかんでしまえば、絶対に手放さない。